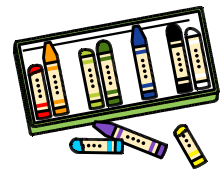


ぶれよん



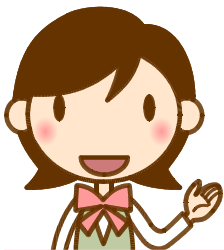
2014年 4月号

とても暖かな日が続いていますね。道外の桜だよりをテレビ番組で見ますと、早く北海道でも咲いて欲しいと、待ち遠しい今日この頃です。このおたよりがお手元に届くのは、入園、入学式、進級式が終わり、子ども達が元気良く、登園、登校している頃だと思います。

あるベテランの先生が、この時期の子ども達の心を「風船」にたとえて、こんなお話をしてくださったことがあります。

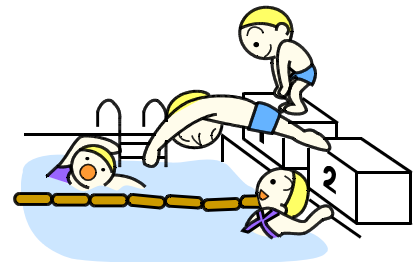
「朝、ぱんぱんに膨らんだ風船のように、元気良く出かけた子ども達も、学校の中での出来事で、家に帰ってきたときには、しぼんだ状態になっています。この時期はゆっくり休ませてあげることが大切です。そうすれば、また次の日に、元気いっぱいの状態で出かけることができますよ」という内容でした。

この時期になると、「ぱんぱんの風船」のお話が思い出されます。



4月現在の通級児童数

幼児定期指導	28名
幼児不定期指導	3名
学童	6名
プール指導	8名



プール指導についてのお知らせ

ぶれいらんどでは、毎週木曜日の16時から1時間、りふれのプールにてインストラクターの方から、指導を受けています。

はじめは入ることも怖がっていたお友達も回数を重ねるごとに、ビート板を使って泳げるようになったり、魚のように自由自在に潜れるようになっていきます。保護者の方に1対1で付いて頂くことが条件です。親子一緒に体力作りをしてみませんか？

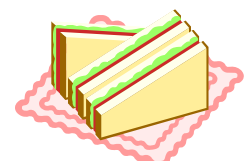
ご希望の方は、担当者まで申し込んでください。

『風景』

パン屋さんでお昼にしようと思った時のことです。たまたま、同じ年齢の子どもを連れて家族が2組いました。1組は、3人で「おいしいね」と言って食べています。もう1組は、両親がそれぞれ自分のスマホをしながら食べています。子どもも黙々と食べています。

「たまたま」スマホをしていたのですが、対照的な2組でした。

「常に」このような状態であると、子どものことばの発達や他者とのコミュニケーションは、何年か後には差が出てくるのかなあ・・・と思いながら、私も一人で黙々とパンをほおばっていました。



風になる

著者 東田 直樹

ビッグイシュー日本 編集部

昔のどんな自分も肯定したい 「好き」と言ってもらえることが人の価値を決める

みんなに必要な人だと思ってもらえるのは、とても誇らしいことです。人の役に立つのは、価値ある人間だとみとめられたことにもつながります。生産性が高くなければ、人間社会は成り立ちません。そういった意味では、障害者や働けない人は、生産性の低い人間ということになります。けれども僕は、みんなに支えられて生きている人が、だめな人間だとは思っていないのです。自分がそうだから、こんなことを言うのではありません。

障害者の中には、みんなのように働けないのが自分のせいだと考えている人もいます。能力がないから、みんなと違うから、無理だからなど、働けない原因は自分にあると感じています。それがつらく悲しいことでも、自分のせいなので仕方がないと思いこんでいるのです。

もちろん、障害があっても立派に働いている人もたくさんいます。しかし、本人が納得できるような働き方をしている人は、ごくわずかなのが現状です。

人としての価値とは、何でしょう。

たとえば、きれいに咲く花は人をひきつけ心を癒してくれます。どの花も魅力的ですが、好きな花というのは、人によって違います。お金をかけて温室で育てられたバラが好きな人もいれば、野に咲くタンポポが好きな人もいます。

「好き」という気持ちは人間にとっての根本的な感情です。好きなものを守りたい気持ち、好きなものと一緒にいたい思いなど、好きという感情自体は、効率や生産性とは関係ありません。

人は「好き」という感情をととても大切にしています。これは人としての価値を考える上でも重要です。誰かが自分を好きだと言ってくれる、大事な存在だと思ってくれる、それが人の価値をたかめるのではないのでしょうか。



東田さんは自閉症です。自分の体験を本にしています。私達は、それを読むことによって、同じ悩みを持っている子ども達の気持ちを理解することができるようになりました。